



## データの収集中

### Data Infrastructure Insights

NetApp  
October 08, 2025

This PDF was generated from [https://docs.netapp.com/ja-jp/data-infrastructure-insights/task\\_getting\\_started\\_with\\_cloud\\_insights.html](https://docs.netapp.com/ja-jp/data-infrastructure-insights/task_getting_started_with_cloud_insights.html) on October 08, 2025. Always check [docs.netapp.com](https://docs.netapp.com) for the latest.

# 目次

データの収集中	1
データの収集を開始しています	1
Acquisition Unit をインストールする	1
Data Collector - インフラストラクチャを設定します	1
Data Collector の設定 - オペレーティングシステムとサービス	2
ダッシュボードを追加します	2
これで終了です	2
便利な定義	2
Acquisition Unit の要件	3
要件	3
その他の推奨事項	5
サイジングについて	6
Acquisition Unit の設定	6
Linux Acquisition Unit の追加	6
Windows Acquisition Unit の追加	8
Acquisition Unit のアンインストール	9
Acquisition Unit の再インストール	10
AU 詳細を表示しています	11
データを収集するためのエージェントの設定(Windows/Linux)	11
エージェントをインストールしています	12
Telegrafパッケージチェックサムの確認	19
APIアクセストークンの作成と使用	21
トラブルシューティング	21
データコレクタの設定	22
データコレクタの収集ステータスの確認	23
設定済みデータコレクタの管理	23
Data Collector ポーリングの制御	24
データコレクタ情報の編集	24
データコレクタのクローニング	25
データコレクタに対して一括操作を実行する	25
データコレクタの問題の調査	25

# データの収集中

## データの収集を開始しています

Data Infrastructure Insightsに登録して初めて環境にログインすると、次の手順に従ってデータの収集と管理を開始します。

データコレクタによって、ストレージデバイス、ネットワークスイッチ、仮想マシンなどのデータソースから情報が検出されます。収集された情報は、分析、検証、監視、およびトラブルシューティングに使用されます。

Data Infrastructure Insightsには、次の3種類のデータコレクタがあります。

- ・インフラ（ストレージデバイス、ネットワークスイッチ、コンピューティングインフラ）
- ・オペレーティングシステム（VMwareやWindowsなど）
- ・サービス（Kafkaなど）

サポートされているベンダーとモデルから最初のデータコレクタを選択してください。あとでデータコレクタを簡単に追加できます。

## Acquisition Unit をインストールする

\_Infrastructure\_dataコレクタを選択した場合は、Data Infrastructure Insightsにデータを挿入するためAcquisition Unitが必要です。収集対象のデータセンターにあるサーバまたはVMにAcquisition Unitソフトウェアをダウンロードしてインストールする必要があります。1つのAcquisition Unitを複数のデータコレクタに使用できます。

[Linux AU の手順]

- ・表示される手順に従って"手順"Acquisition Unitをインストールします。Acquisition Unit ソフトウェアをインストールすると、Continue ボタンが表示され、次の手順に進みます。

[新しいAUが検出されました]

Acquisition Unitは、必要に応じてあとから追加で設定することもできます。たとえば、異なるAcquisition Unitでリージョンのデータセンターから情報を収集する場合があります。

## Data Collector - インフラストラクチャを設定します

\_Infrastructure\_dataコレクタの場合は、表示されるデータコレクタフィールドに入力するように求められます。

- ・データコレクタに一意でわかりやすい名前を付けます。
- ・必要に応じて、クレデンシャル（ユーザ名とパスワード）を入力してデバイスに接続します。
- ・\_Configuration\_Section\_and\_Advanced\_Configuration\_Sectionsに他の必須フィールドを入力します。
- ・[コレクタの追加]をクリックして、データコレクタを保存します。

あとで追加のデータコレクタを設定できます。

## Data Collector の設定 - オペレーティングシステムとサービス

### オペレーティングシステム

Operating System\_dataコレクタの場合は、プラットフォーム（Linux、Windows）を選択してData Infrastructure Insights Agentをインストールします。サービスからデータを収集するには、少なくとも 1 人のエージェントが必要です。また、エージェントはホスト自体からデータを収集し、Data Infrastructure Insights で使用します。このデータは、ウィジエットなどでは「ノード」データに分類されます

- エージェントホストまたは VM でターミナルまたはコマンドウィンドウを開き、表示されたコマンドを貼り付けてエージェントをインストールします。
- インストールが完了したら、[\* Complete Setup\*（セットアップの完了）] をクリックします。

### サービス

\_Service\_data コレクタの場合は、タイルをクリックして、そのサービスの指示ページを開きます。

- プラットフォームとエージェントアクセスキーを選択します。
- そのプラットフォームにエージェントがインストールされていない場合は、指示に従ってエージェントをインストールします。
- [\* Continue（続行）] をクリックして、データコレクタの説明ページを開きます。
- 指示に従ってデータコレクタを設定します。
- 設定が完了したら、[\* Complete Setup\*（セットアップの完了）] をクリックします。

### ダッシュボードを追加します

設定対象として選択した初期データコレクタのタイプ（ストレージ、スイッチなど）に応じて、関連するダッシュボードが 1 つ以上インポートされます。たとえば、ストレージデータコレクタを設定している場合、ストレージ関連の一連のダッシュボードがインポートされ、そのダッシュボードが Data Infrastructure Insights のホームページとして設定されます。ホームページは、[ダッシュボード（\*Dashboards）]>[すべてのダッシュボードを表示（Show All Dashboards）] リストから変更できます。

追加のダッシュボードは、または後でインポートできます["自分で作成します"](#)。

### これで終了です

初期セットアッププロセスが完了すると、環境でデータの収集が開始されます。

初期セットアッププロセスが中断された場合（ブラウザウィンドウを閉じた場合など）は、次の手順を手動で実行する必要があります。

- Data Collector を選択します
- プロンプトが表示されたら、Agent または Acquisition Unit をインストールします
- Data Collector を設定します

### 便利な定義

Data Infrastructure Insights のデータコレクタや機能について説明する際には、次の定義が役立ちます。

- コレクタのライフサイクル:コレクタは'ライフサイクルの次のいずれかの状態に属します
  - レビュー:限定された容量または限定された視聴者に提供されます。["フィーチャーをレビューします"](#)また、レビュー期間後にはデータコレクタがGAになる予定です。レビュー期間は、対象者や機能によって異なります。
  - \* GA\*:エディションまたは機能セットに基づいて、すべてのお客様が一般に利用できる機能またはデータコレクタ。
  - 廃止予定:機能上の持続可能性がなくなった、または今後アップする予定の環境 データコレクタ。非推奨のデータコレクタは、多くの場合、新しい機能上更新されたデータコレクタに置き換えられます。
  - \*Deleted\*:削除され、使用できなくなったデータコレクタ。
- Acquisition Unit:データコレクタをホストする専用のコンピュータ。通常は仮想マシンです。通常、このコンピュータは、監視対象の項目と同じデータセンター/VPC内にあります。
- データソース:ハードウェアまたはソフトウェアスタックと通信するためのモジュール。デバイスと通信するためにAUコンピュータで実行される設定とコードで構成されます。

## Acquisition Unit の要件

インフラのデータコレクタ（ストレージ、VM、ポート、EC2など）から情報を取得するには、Acquisition Unit（AU）をインストールする必要があります。Acquisition Unitをインストールする前に、テナントがオペレーティングシステム、CPU、メモリ、およびディスクスペースの要件を満たしていることを確認する必要があります。

### 要件

コンポーネント	Linux 要件	Windows 要件
---------	----------	------------

オペレーティングシステム	<p>次のいずれかのライセンス版を実行しているコンピュータ: * AlmaLinux 9.3 ~ 9.5 * CentOS (64ビット): 7.2 ~ 7.9、8.1 ~ 8.4 * Stream 8、Stream 9 * Debian (64ビット): 9 ~ 12 * OpenSUSE Leap 15.1 ~ 15.6 * Oracle Enterprise Linux (64ビット): 7.5 ~ 7.9、8.1 ~ 8.10、9.3 ~ 9.6 * Red Hat (64ビット): 7.2 ~ 7.9、8.1 ~ 8.10、9.1 ~ 9.6 * Rocky 9.0 ~ 9.5 * SUSE Linux Enterprise Server 15、15 SP2 ~ 15 SP6 * Ubuntu Server: 18.04、20.04、22.04 * 24.04 LTS * SELinux on上記のプラットフォーム このコンピューターでは、他のアプリケーションレベルのソフトウェアは実行しないでください。専用のサーバを使用することを推奨します。SELinuxを使用している場合は、Acquisition Unitシステムで次のコマンドを実行することを推奨します。 sudo semanage fcontext -a -t usr_t "/opt/NetApp/cloudinsights (*.*) ?" "sudo restorecon -R /opt/NetApp/cloudinsights</p>	<p>次のいずれかのライセンスバージョンを実行しているコンピューター。 * Microsoft Windows 10 64ビット * Microsoft Windows 11 * Microsoft Windows Server 2012 * Microsoft Windows Server 2012 R2 * Microsoft Windows Server 2016 * Microsoft Windows Server 2019 * Microsoft Windows Server 2022 * Microsoft Windows Server 2025 このコンピューターは、他のアプリケーションレベルのソフトウェアを実行していない必要があります。専用のサーバを使用することを推奨します。</p>
CPU	2個のCPUコア	同じ
メモリ	8GBのRAM	同じ
使用可能なディスクスペース	50GB (100GBを推奨) Linuxの場合は、次のようにディスクスペースを割り当てる必要があります。 /opt/NetApp 10GB (大規模環境では20GB) /var/log/NetApp 40GB (大規模環境では80GB) /tmpインストール時に1GB以上利用可能	50GB

ネットワーク	100 Mbps/1 Gbpsイーサネット接続、静的IPアドレス、およびAcquisition Unitから*.cloudinsights.accom/Data Infrastructure NetAppテナント (\https://<tenant_id>.c01.cloudinsights.c01.cloudinsights.c.com NetApp) へのポート80または443（アウトバウンド）接続が必要です。Acquisition Unitと各Data Collectorの間の要件については、の手順を参照してください"Data Collector"。インターネットアクセスにプロキシを使用する必要がある場合は、組織のプロキシの動作を理解し、Data Infrastructure Insightsが機能するため特定の例外を探す必要があります。たとえば、デフォルトでアクセスがブロックされ、特定のWebサイト/ドメインへのアクセスのみが例外で許可されていますか。その場合は、次のドメインを例外リストに追加する必要があります。*.NetApp.com詳細については、プロキシ"こちら (Linux)"またはを参照してください。"ここ (Windows)" AUからData Infrastructure Insightsへのポート443を「アウトバウンド」で開く必要があることに注意してください。	同じ
権限	Acquisition Unit サーバに対する sudo 権限/tmp は EXEC 機能でマウントする必要があります。	Acquisition Unit サーバに対する管理者権限が必要です
ウィルススキャン		インストール時に、すべてのウィルススキャンソフトウェアを完全に無効にする必要があります。インストール後に、Acquisition Unit ソフトウェアで使用するパスをウィルススキャンから除外する必要があります。

## 他の推奨事項

- 正確な監査およびデータレポートを作成するためには、\* Network Time Protocol (NTP；ネットワークタイムプロトコル) \* または \* Simple Network Time Protocol (SNTP) \* を使用して Acquisition Unit マシンの時間を同期することを強く推奨します。

## サイジングについて

Data Infrastructure Insights Acquisition Unitの使用は、メモリが8GB、ディスクスペースが50GBしかないので開始できますが、大規模な環境の場合は次の点を自問してください。

次のことを期待していますか？

- この Acquisition Unit 上で、2500 台を超える仮想マシン、または 10 台の大規模（2 ノード以上）の ONTAP クラスタ、Symmetrix、HDS / HPE VSP/XP アレイを検出できるか？
- この Acquisition Unit に合計 75 個以上のデータコレクタを導入しますか？

上記の「はい」回答ごとに、8 GB のメモリと 50 GB のディスク容量を AU に追加することをお勧めします。たとえば、「はい」と答えた場合、150GB 以上のディスクスペースを備えた 24GB のメモリシステムを導入する必要があります。Linux の場合、ログの場所に追加するディスクスペース。

サイジングに関するその他の情報については、ネットアップサポートにお問い合わせください。

## Acquisition Unit の設定

Data Infrastructure Insightsは、ローカルサーバにインストールされている1つ以上のAcquisition Unitを使用してデバイスデータを収集します。各Acquisition Unitは複数のデータコレクタをホストでき、データコレクタはデバイスマトリックをData Infrastructure Insightsに送信して分析します。

ここでは、Acquisition Unit を追加する方法と、プロキシを使用する環境で必要な追加の手順について説明します。



正確な監査およびデータレポートを作成するためには、\* Network Time Protocol (NTP；ネットワークタイムプロトコル) \* または \* Simple Network Time Protocol (SNTP) \* を使用して Acquisition Unit マシンの時間を同期することを強く推奨します。

Data Infrastructure Insightsのセキュリティについては["ここをクリック"](#)、こちらをご覧ください。

### Linux Acquisition Unit の追加

開始する前に

- プロキシを使用するシステムの場合は、Acquisition Unit をインストールする前にプロキシ環境変数を設定する必要があります。詳細については、を参照してください[\[プロキシ環境変数を設定しています\]](#)。

#### Linux Acquisition Unit のインストール手順

- Data Infrastructure Insights環境に管理者またはアカウント所有者としてログインします。
- [Observability]>[Collectors]>[Acquisition Units]>[+Acquisition Unit]

[Install Acquisition Unit\_Dialog] が表示されます。Linux を選択します。

#### [Linux AU の手順]

- Acquisition Unit をホストしているサーバまたは VM が推奨されるシステム要件を満たしていることを確認

する。

2. サーバでサポートされているバージョンの Linux が実行されていることを確認します。サポートされているバージョンのリストについては、「サポートされている OS バージョン」(i) をクリックしてください。
3. ダイアログ内の Installation コマンドスニペットを、Acquisition Unit をホストするサーバまたは VM のターミナルウィンドウにコピーします。
4. Bash シェルにコマンドを貼り付けて実行します。

終了後

- [Observability]>[Collectors]>[Acquisition Units]\*をクリックして、Acquisition Unitのステータスを確認します。
- Acquisition Unit のログには、/var/log/netapp/cloudInsights/acq/acq.log からアクセスできます
- Acquisition Unit を制御するには、次のスクリプトを使用します。
  - cloudinsights-service.sh (stop、start、restart、status を確認)
- Acquisition Unit をアンインストールするには、次のスクリプトを使用します。
  - cloudinsights-uninstall.sh

プロキシ環境変数を設定しています

プロキシを使用する環境では、Acquisition Unit を追加する前にプロキシ環境変数を設定する必要があります。プロキシの設定手順は、\_Acquisition Unit の追加ダイアログに記載されています。

1. [+ in\_ プロキシサーバを使用しますか ?\_] をクリックします
2. コマンドをテキストエディタにコピーし、必要に応じてプロキシ変数を設定します。

注：プロキシユーザ名とパスワードのフィールドでは、特殊文字に関する制限に注意してください。ユーザ名フィールドに入力できます。': '、%、'! ' パスワードフィールドに入力できます。

3. Bash シェルを使用して、端末で編集したコマンドを実行します。
4. Acquisition Unit ソフトウェアをインストールします。

プロキシ設定：

Acquisition Unitは、双方向認証と相互認証を使用してData Infrastructure Insightsサーバに接続します。認証するには、クライアント証明書をData Infrastructure Insightsサーバに渡す必要があります。そのためには、データを復号化せずにHTTPS要求をData Infrastructure Insightsサーバに転送するようにプロキシを設定する必要があります。

これを行う最も簡単な方法は、Data Infrastructure Insightsと通信するためにプロキシ/ファイアウォールでワイルドカード設定を指定することです。次に例を示します。

\*.cloudinsights.netapp.com



ワイルドカードにアスタリスク (\*) を使用するのは一般的ですが、プロキシ / ファイアウォールの設定では異なる形式を使用することができます。プロキシのドキュメントで、ワイルドカードを正しく指定できることを確認してください。

プロキシ設定の詳細については、 NetApp "ナレッジベース (Knowledgbase) "。

#### プロキシ URL の表示

オンボーディング中にデータコレクタを選択するときに [\* プロキシ設定 \*] リンクをクリックするか、 [\* ヘルプ > サポート \*] ページの [ プロキシ設定 ] の下のリンクをクリックすると、プロキシエンドポイントの URL を表示できます。次のようなテーブルが表示されます。

#### [プロキシエンドポイントテーブル]

テナントにワークロードセキュリティが設定されている場合は、設定されているエンドポイントURLもこのリストに表示されます。

## Windows Acquisition Unit の追加

### Windows Acquisition Unit のインストールの手順

1. 管理者権限を持つユーザとして Acquisition Unit サーバ / VM にログインします。
2. そのサーバで、ブラウザウィンドウを開き、管理者またはアカウント所有者として Data Infrastructure Insights 環境にログインします。
3. [Observability]>[Collectors]>[Acquisition Units]>[+Acquisition Unit]

[Install Acquisition Unit\_Dialog] が表示されます。Windows を選択します。

#### [Windows AU のインストール]

1. Acquisition Unit をホストしているサーバまたは VM が推奨されるシステム要件を満たしていることを確認する。
2. サーバでサポートされているバージョンの Windows が実行されていることを確認します。サポートされているバージョンのリストについては、「サポートされている OS バージョン」 (i) をクリックしてください。
3. [ インストーラのダウンロード (Windows 64 ビット) \*] ボタンをクリックします。
4. アクセスキーをコピーします。インストール中にこのファイルが必要になります。
5. Acquisition Unit のサーバ / VM で、ダウンロードしたインストーラを実行します。
6. プロンプトが表示されたら、アクセスキーをインストールウィザードに貼り付けます。
7. インストール中に、プロキシサーバーの設定が表示されます。

### 終了後

- [Observability]>[Collectors]>[Acquisition Units]\*をクリックして、Acquisition Unit のステータスを確認します。
- Acquisition Unit のログには、<install dir>\Cloud Insights \Acquisition Unit \log\acq.log からアクセスできます
- Acquisition Unit のステータスを確認するには、次のスクリプトを使用します。

```
cloudinsights-service.sh
```

プロキシ設定：

Acquisition Unitは、双方向認証と相互認証を使用してData Infrastructure Insightsサーバに接続します。認証するには、クライアント証明書をData Infrastructure Insightsサーバに渡す必要があります。そのためには、データを復号化せずにHTTPS要求をData Infrastructure Insightsサーバに転送するようにプロキシを設定する必要があります。

これを行う最も簡単な方法は、Data Infrastructure Insightsと通信するためにプロキシ/ファイアウォールでワイルドカード設定を指定することです。次に例を示します。

```
*.cloudinsights.netapp.com
```



ワイルドカードにアスタリスク (\*) を使用するのは一般的ですが、プロキシ / ファイアウォールの設定では異なる形式を使用することができます。プロキシのドキュメントで、ワイルドカードを正しく指定できることを確認してください。

プロキシ設定の詳細については、 NetApp"ナレッジベース (Knowledgbase) "。

プロキシ URL の表示

オンボーディング中にデータコレクタを選択するときに [\* プロキシ設定 \*] リンクをクリックするか、 [\* ヘルプ > サポート \*] ページの [ プロキシ設定 ] の下のリンクをクリックすると、プロキシエンドポイントの URL を表示できます。次のようなテーブルが表示されます。

[プロキシエンドポイントテーブル]

テナントにワーカロードセキュリティが設定されている場合は、設定されているエンドポイントURLもこのリストに表示されます。

## Acquisition Unit のアンインストール

Acquisition Unit ソフトウェアをアンインストールするには、次の手順を実行します。

- Windows : \*

Windows \* Acquisition Unitをアンインストールする場合は、次の手順を実行します。

1. Acquisition Unit のサーバー /VM で、 Control Panel を開いて、「プログラムのアンインストール」を選択します。削除するData Infrastructure Insights Acquisition Unitプログラムを選択します。
2. [ アンインストール ] をクリックし、画面の指示に従います。

- Linux : \*

Linux\* Acquisition Unitをアンインストールする場合は、次の手順を実行します。

1. Acquisition Unit サーバ / VM で、次のコマンドを実行します。

```
sudo cloudinsights-uninstall.sh -p
```

・アンインストールのヘルプについては、次のコマンドを実行します。

```
sudo cloudinsights-uninstall.sh --help
```

• WindowsおよびLinux :\*

• AUのアンインストール後：

1. Data Infrastructure Insightsで、[Observability]>[Collectors]に移動し、[Acquisition Units]\*タブを選択します。
2. アンインストールする Acquisition Unit の右側にある Options ボタンをクリックし、\_Delete\_を 選択します。Acquisition Unit は、その Acquisition Unit にデータコレクタが割り当てられていない場合のみ削除できます。

 データコレクタが接続されているAcquisition Unit (AU) は削除できません。元のAUを削除する前に、AUのすべてのデータコレクタを別のAUに移動します（コレクタを編集して別のAUを選択するだけです）。

横に星印が付いたAcquisition Unitがデバイス解決に使用されています。このAUを削除する前に、デバイス解決に使用する別のAUを選択する必要があります。別のAUにカーソルを合わせ、「3つのドット」メニューを開き、「デバイス解像度に使用」を選択します。

[デバイス解決に使用されるAU]

## Acquisition Unit の再インストール

Acquisition Unit を同じサーバ / VM に再インストールするには、次の手順を実行する必要があります。

開始する前に

Acquisition Unit を再インストールするには、あらかじめ別のサーバ / VM で一時的な Acquisition Unit を設定しておく必要があります。

手順

1. Acquisition Unit サーバ / VM にログインし、AU ソフトウェアをアンインストールします。
2. Data Infrastructure Insights環境にログインし、\*オブザーバビリティ>コレクタ\*に移動します。
3. 各データコレクタについて、右側の [ オプション ] メニューをクリックし、Edit を選択します。一時収集ユニットにデータコレクタを割り当て、\* 保存 \* をクリックします。

同じタイプの複数のデータコレクタを選択し、\* 一括アクション \* ボタンをクリックすることもできます。Edit を選択し、データコレクタを一時 Acquisition Unit に割り当てます。

4. すべてのデータコレクタを一時的なAcquisition Unitに移動したら、[Observability]>[Collectors]\*に移動し、[Acquisition Units]\*タブを選択します。
5. 再インストールする Acquisition Unit の右側にある Options ボタンをクリックし、\_Delete\_ を選択します。Acquisition Unit は、その Acquisition Unit にデータコレクタが割り当てられていない場合にのみ削除できます。
6. Acquisition Unit ソフトウェアを元のサーバ / VM に再インストールできるようになりました。+ Acquisition Unit \* をクリックし、上記の手順に従って Acquisition Unit をインストールします。
7. Acquisition Unit を再インストールしたら、データコレクタを Acquisition Unit に再び割り当てます。

## AU 詳細を表示しています

Acquisition Unit (AU) の詳細ページには、AU に関する有用な情報やトラブルシューティングに役立つ情報が表示されます。AU 詳細ページには、次のセクションがあります。

- 以下を示す \* サマリ \* セクション：
  - \* Acquisition Unit の名前 \* と IP \*
  - AU の現在の接続 \* Status \*
  - \* 最終報告 \* データコレクタのポーリング時間に成功
  - AU マシンの \* オペレーティング・システム \*
  - AU の現在の \* 注 \*。このフィールドには、AU のコメントを入力します。このフィールドには、最後に追加されたメモが表示されます。
- 各データコレクタについて、AU \* Data Collectors \* のテーブルが表示されます。
  - \* 名前 \* - このリンクをクリックすると、追加情報を使用してデータコレクタの詳細ページにドリルダウンできます
  - \* Status \* - 成功またはエラー情報
  - \* タイプ \* - ベンダー / モデル
  - \* データコレクタの IP \* アドレス
  - 現在の \* 影響 \* レベル
  - \*Last Acquired \* time : データコレクタが最後に正常にポーリングされた時刻

### [AU Detail Page の例]

データコレクタごとに、[Three dots] メニューをクリックして、データコレクタの複製、編集、ポーリング、または削除を実行できます。このリストで複数のデータコレクタを選択して、それらに対して一括操作を実行することもできます。

Acquisition Unit を再起動するには、ページ上部の「\* Restart \*」ボタンをクリックします。接続に問題が発生した場合に、このボタンをドロップダウンして、AU への \* 接続の復元 \* を試行します。

## データを収集するためのエージェントの設定(Windows/Linux)

Data Infrastructure Insightsは、"Telegraf"統合データ収集のエージェントとしてを使用します。Telegraf はプラグインベースのサーバエージェントで、指標、イベント、ログの収

集とレポートに使用できます。入力プラグインは、システム /OS に直接アクセスするか、サードパーティ API を呼び出すか、設定されたストリームをリスニングすることによって、エージェントに必要な情報を収集するために使用されます（例：） Kafka や StatsD など）を参照してください。出力プラグインは、収集されたメトリック、イベント、ログをエージェントから Data Infrastructure Insights に送信するために使用されます。

Kubernetesへのインストールの詳細については、ページを参照して "[NetApp Kubernetes Monitoring Operator](#)" ください。

-  正確な監査およびデータレポートを作成するためには、\* Network Time Protocol (NTP; ネットワークタイムプロトコル) \* または \* Simple Network Time Protocol (SNTP) \* を使用して、Agent マシンの時刻を同期することを強くお勧めします。
-  Agentをインストールする前にインストールファイルを確認する場合は、の次のセクションを参照してください[Telegrafパッケージチェックサムの確認](#)。

## エージェントをインストールしています

サービスデータコレクタをインストールしていく、エージェントをまだ設定していない場合は、最初に適切なオペレーティングシステム用のエージェントをインストールするように求められます。このトピックでは、Tegraf エージェントを次のオペレーティングシステムにインストールする手順について説明します。

- [\[ウィンドウ\]](#)
- [RHEL および CentOS](#)
- [Ubuntu と Debian](#)

エージェントをインストールするには、使用しているプラットフォームに関係なく、まず次の手順を実行する必要があります。

1. エージェントに使用するホストにログインします。
2. Data Infrastructure Insights 環境にログインし、\*オブザーバビリティ>コレクタ\*に移動します。
3. **[+Data Collector]** をクリックして、インストールするデータコレクタを選択します。
4. ホストに適したプラットフォームを選択 (Windows、Linux)
5. プラットフォームごとに、残りの手順を実行します。

-  ホストにエージェントをインストールしたら、そのホストに再度エージェントをインストールする必要はありません。
-  サーバ/ VMにエージェントをインストールすると、Data Infrastructure Insightsは、設定したデータコレクタからの収集に加えて、そのシステムから指標を収集します。これらの指標はとして収集され "[「ノード」指標](#)" ます。
-  プロキシを使用している場合は、Tegraf エージェントをインストールする前に、お使いのプラットフォームのプロキシの手順をお読みください。

## ログの場所

Telegrafログメッセージは、stdoutから次のログファイルにリダイレクトされます。デフォルトでは、

- RHEL / CentOS : /var/log/telegraf/telegraf.log
- Ubuntu/Debian : /var/log/telegraf/telegraf.log
- Windows : C : \Program Files\telegraf\telegraf.log

## ウィンドウ

### 前提条件

- PowerShell がインストールされていること
- プロキシの背後にいる場合は、「Windows \*プロキシ・サポートの構成」セクションの手順に従う必要があります。

**Windows** 向けプロキシサポートを設定しています



プロキシを使用する環境の場合は、をインストールする前にこのセクションをお読みください。



次の手順は '\_http\_proxy/https\_proxy\_environment 変数を設定するために必要なアクションの概要を示しています一部のプロキシ環境では '\_no\_proxy 環境変数も設定する必要があります

プロキシの背後にあるシステムの場合、Telegraf エージェントをインストールする前に `https_proxy` および `/or_http_proxy_environment` 変数 \* を設定するには、次の手順を実行します。

```
[System.Environment]:SetEnvironmentVariable("https_proxy",
"<proxy_server>:<proxy_port>", [System.EnvironmentVariableTarget]:Machine)
```

エージェントをインストールしています

[Windows Agent のインストール]

**Windows** にエージェントをインストールする手順：

1. エージェントアクセスキーを選択します。
2. エージェントのインストールダイアログからコマンドブロックをコピーします。クリップボードアイコンをクリックすると、コマンドをクリップボードに簡単にコピーできます。
3. PowerShell ウィンドウを開きます
4. コマンドを PowerShell ウィンドウに貼り付け、Enter キーを押します。
5. コマンドは、適切なエージェントインストーラをダウンロードしてインストールし、デフォルト設定を行います。終了すると、エージェントサービスが再起動されます。コマンドには一意のキーがあり、24 時間有効です。
6. [完了] または [続行] をクリックします

エージェントのインストール後、次のコマンドを使用してサービスを開始または停止できます。

```
Start-Service telegraf  
Stop-Service telegraf
```

エージェントをアンインストールしています

Windows でエージェントをアンインストールするには、 PowerShell ウィンドウで次の手順を実行します。

1. Tegraf サービスを停止して削除します。

```
Stop-Service telegraf  
sc.exe delete telegraf
```

2. 証明書を信頼ストアから削除します。

```
cd Cert:\CurrentUser\Root  
//rm E5FB7B68C08B1CA902708584C274F8EFC7BE8ABC  
rm 1A918038E8E127BB5C87A202DF173B97A05B4996
```

3. バイナリ、ログ、およびコンフィグレーションファイルを削除するには、 \_C : \Program Files\テレ グラム フォルダを削除します
4. レジストリから \_SYSTEM\CurrentControlSet\Services\EventLog\Application\テレ グラムキーを削除します

**Agent** をアップグレードしています

テレグラムエージェントをアップグレードするには、次の手順に従います。

1. テレグラムサービスを停止および削除します。

```
Stop-Service telegraf  
sc.exe delete telegraf
```

2. レジストリから \_SYSTEM\CurrentControlSet\Services\EventLog\Application\テレ グラムキーを削除します
3. DELETE\_C : \Program Files\テレ グラム\テレ グラム af.conf\_
4. DELETE\_C : \Program Files\テレ グラム\テレ グラム af.exe\_
5. "新しいエージェントをインストールします"です。

**RHEL および CentOS**

## 前提条件

- curl、sudo、ping、sha256sum、openssl、dmidecodeとなります
- プロキシの背後にある場合は、「RHEL / CentOS \*用のプロキシサポートの設定」セクションの手順に従う必要があります。

## RHEL / CentOS でのプロキシサポートの設定



プロキシを使用する環境の場合は、をインストールする前にこのセクションをお読みください。



次の手順は '\_http\_proxy/https\_proxy\_environment 変数を設定するために必要なアクションの概要を示しています一部のプロキシ環境では '\_no\_proxy 環境変数も設定する必要があります

プロキシの背後にあるシステムの場合は、Telegraf エージェントをインストールする前に、次の手順 \* を実行します。

1. 現在のユーザの https\_proxy 変数と \_http\_proxy\_environment 変数を設定します。

```
export https_proxy=<proxy_server>:<proxy_port>
. /etc/default/テレ グラム af_ を作成し、
_https_proxy/_or_http_proxy_variable の定義を挿入します。
```

```
https_proxy=<proxy_server>:<proxy_port>
```

エージェントをインストールしています

### [RHEL / CentOS Agent のインストール]

RHEL または CentOS にエージェントをインストールする手順：

1. エージェントアクセスキーを選択します。
2. エージェントのインストールダイアログからコマンドブロックをコピーします。クリップボードアイコンをクリックすると、コマンドをクリップボードに簡単にコピーできます。
3. Bash ウィンドウを開きます
4. Bash ウィンドウにコマンドを貼り付けて、Enter キーを押します。
5. コマンドは、適切なエージェントインストーラをダウンロードしてインストールし、デフォルト設定を行います。終了すると、エージェントサービスが再起動されます。コマンドには一意のキーがあり、24 時間有効です。
6. [完了] または [続行] をクリックします

エージェントのインストール後、次のコマンドを使用してサービスを開始または停止できます。

オペレーティングシステムで systemd ( CentOS 7+ および RHEL 7+ ) を使用している場合：

```
sudo systemctl start telegraf  
sudo systemctl stop telegraf
```

オペレーティングシステムで systemd ( CentOS 7+ および RHEL 7+ ) を使用していない場合：

```
sudo service telegraf start  
sudo service telegraf stop
```

エージェントをアンインストールしています

Bash 端末で RHEL または CentOS のエージェントをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. Telegraf サービスを停止します。

```
systemctl stop telegraf (If your operating system is using systemd  
(CentOS 7+ and RHEL 7+)  
/etc/init.d/telegraf stop (for systems without systemd support)
```

2. Tegraf エージェントを取り外します。

```
yum remove telegraf  
. 残っている設定ファイルまたはログファイルを削除します。
```

```
rm -rf /etc/telegraf*  
rm -rf /var/log/telegraf*
```

Agent をアップグレードしています

テレグラムエージェントをアップグレードするには、次の手順に従います。

1. テレグラムサービスを停止します。

```
systemctl stop telegraf (If your operating system is using systemd  
(CentOS 7+ and RHEL 7+)  
/etc/init.d/telegraf stop (for systems without systemd support)
```

2. 前のテレグラムエージェントを削除します。

```
yum remove telegraf
. xref:{relative_path}#rhel-and-centos["新しいエージェントをインストールします"]です。
```

## Ubuntu と Debian

### 前提条件

- curl、sudo、ping、sha256sum、openssl、dmidecodeとなります
- プロキシの背後にいる場合は、「Ubuntu / Debian \*用のプロキシサポートの設定」セクションの手順に従う必要があります。

### Ubuntu / Debian のプロキシサポートの設定



プロキシを使用する環境の場合は、をインストールする前にこのセクションをお読みください。



次の手順は '\_http\_proxy/https\_proxy\_environment 変数を設定するために必要なアクションの概要を示しています一部のプロキシ環境では '\_no\_proxy 環境変数も設定する必要があります

プロキシの背後にあるシステムの場合は、Telegraf エージェントをインストールする前に、次の手順 \* を実行します。

1. 現在のユーザの https\_proxy 変数と \_http\_proxy\_environment 変数を設定します。

```
export https_proxy=<proxy_server>:<proxy_port>
. /etc/default/テレ グラムを作成し、 _https_proxy/_or_http_proxy_variable
以下の定義を挿入します。
```

```
https_proxy=<proxy_server>:<proxy_port>
```

### エージェントをインストールしています

#### [Ubuntu / Debian Agent のインストール]

##### Debian または Ubuntu にエージェントをインストールする手順：

1. エージェントアクセスキーを選択します。
2. エージェントのインストールダイアログからコマンドブロックをコピーします。クリップボードアイコンをクリックすると、コマンドをクリップボードに簡単にコピーできます。
3. Bash ウィンドウを開きます
4. Bash ウィンドウにコマンドを貼り付けて、Enter キーを押します。
5. コマンドは、適切なエージェントインストーラをダウンロードしてインストールし、デフォルト設定を行

います。終了すると、エージェントサービスが再起動されます。コマンドには一意のキーがあり、24時間有効です。

## 6. [完了] または [続行] をクリックします

エージェントのインストール後、次のコマンドを使用してサービスを開始または停止できます。

オペレーティング・システムが `systemd` を使用している場合：

```
sudo systemctl start telegraf
sudo systemctl stop telegraf
```

オペレーティングシステムが `systemd` を使用していない場合は、次の手順を実行します。

```
sudo service telegraf start
sudo service telegraf stop
```

エージェントをアンインストールしています

Ubuntu または Debian でエージェントをアンインストールするには、Bash ターミナルで次のコマンドを実行します。

### 1. Telegraf サービスを停止します。

```
systemctl stop telegraf (If your operating system is using systemd)
/etc/init.d/telegraf stop (for systems without systemd support)
```

### 2. Telegraf エージェントを取り外します。

```
dpkg -r telegraf
. 残っている設定ファイルまたはログファイルを削除します。
```

```
rm -rf /etc/telegraf*
rm -rf /var/log/telegraf*
```

**Agent** をアップグレードしています

テレグラムエージェントをアップグレードするには、次の手順に従います。

### 1. テレグラムサービスを停止します。

```
systemctl stop telegraf (If your operating system is using systemd)  
/etc/init.d/telegraf stop (for systems without systemd support)
```

## 2. 前のテレグラムエージェントを削除します。

```
dpkg -r telegraf  
• xref:{relative_path}#ubuntu-and-  
debian["新しいエージェントをインストールします"]です。
```

## Telegrafパッケージチェックサムの確認

Data Infrastructure Insightsエージェントインストーラは整合性チェックを実行しますが、ダウンロードしたTelegrafバイナリをインストールする前に独自の検証を実行したい場合もあります。これを行うには、インストーラをダウンロードしてダウンロードしたパッケージのチェックサムを生成し、チェックサムをインストール手順に示されている値と比較します。

インストールせずにインストーラパッケージをダウンロードします

（デフォルトのダウンロードおよびインストールではなく）ダウンロード専用の操作を実行するには、UIから取得したエージェントインストールコマンドを編集して、「install」オプションを削除します。

次の手順を実行します。

1. 指示に従ってエージェントインストーラスニペットをコピーします。
2. スニペットをコマンドウィンドウに貼り付ける代わりに、テキストエディタに貼り付けます。
3. コマンドから末尾の「--install」（Linux）または「-install」（Windows）を削除します。
4. コマンド全体をテキストエディタからコピーします。
5. 次に、コマンドウィンドウ（作業ディレクトリ内）に貼り付けて実行します。

Windows 以外（Kubernetes の場合は次の例を使用します。実際のスクリプト名は異なる場合があります）

- Download and install（デフォルト）：

```
installerName=cloudinsights-ubuntu_debian.sh ... && ./installerName  
--download --verify && sudo -E -H ./installerName --install  
* ダウンロードのみ：
```

```
installerName=cloudinsights-ubuntu_debian.sh ... && ./installerName  
--download --verify
```

Windows：

- Download and install (デフォルト) :

```
!$(installerName=".\\cloudinsights-windows.ps1") ... -and $(if(((Get-FileHash $installerName).Hash).ToLower() -eq "INSTALLER_CHECKSUM") {&$installerName -download -verify -install } else { Write-Host "Install script checksum does not match"})"
* ダウンロードのみ:
```

```
!$(installerName=".\\cloudinsights-windows.ps1") ... -and $(if(((Get-FileHash $installerName).Hash).ToLower() -eq "INSTALLER_CHECKSUM") {&$installerName -download -verify } else { Write-Host "Install script checksum does not match"})"
```

download-onlyコマンドを実行すると、必要なすべてのアーティファクトがData Infrastructure Insightsから作業ディレクトリにダウンロードされます。アーティファクトには次のものがありますが、これらに限定することはできません。

- インストールスクリプト
- 環境ファイル
- Telegrafバイナリ
- Telegrafバイナリのシグネチャ
- バイナリ署名を検証するパブリック証明書

DIIからダウンロードおよびコピーされたインストールスニペットは、インストールスクリプトを自動的にチェックサムし、Telegrafバイナリの署名はインストールスクリプトによって検証されます。

#### チェックサム値の検証

チェックサム値を生成するには、使用するプラットフォームに応じて次のコマンドを実行します。

- RHEL / Ubuntu :

```
sha256sum <package_name>
* Windows :
```

```
Get-FileHash telegraf.zip -Algorithm SHA256 | Format-List
```

#### ダウンロードしたパッケージをインストールします

すべてのアーティファクトが正常に検証されたら、次のコマンドを実行してエージェントのインストールを開始できます。

Windows 以外：

```
sudo -E -H ./<installation_script_name> --install  
Windows :
```

```
.\cloudinsights-windows.ps1 -install
```

## APIアクセストークンの作成と使用

Telegrafデータ取り込み用のAPIアクセストークンを作成するには、次のいずれかを実行してください。

### Data Collectorのインストールページを使用した作成

1. 使用するプラットフォーム（Windows、Linux）のData Collectorインストールページに移動します。
2. [+API Access Token]ボタンを使用してトークンを作成します。
3. 名前を入力し、[保存]をクリックします。
4. これで、ドロップダウンでトークン名が選択され、コレクタのインストール時に使用されます。

### APIアクセストークンを手動で作成する

1. [Admin]>[API Access]に移動します。
2. [+API Access Token]をクリックします。
3. 名前を入力し、必要に応じて説明を入力します。
4. [What type of APIs will this token be used to calling]で[Data ingestion only]を選択し、[Acquisition Unit]を選択解除します。
5. [Permissions]で[Read/Write]を選択します。
6. [Automatically rotate tokens for Kubernetes]の選択を解除します。

新しく作成したAPIアクセストークンを使用するには、インストーラページの[Select Existing API Access Token or create a new one]ドロップダウンから選択します。使用できるのは、次のプロパティを持つトークンのみです。

- APIタイプ：「データの取り込み」のみ
- 権限：読み取り/書き込み
- Kubernetesの自動ローテーション：オフ

## トラブルシューティング

エージェントの設定で問題が発生した場合の対処方法を次に示します。

問題	次の操作を実行します
新しいプラグインを設定してTegrafを再起動すると、Tegrafが起動しない。ログには、次のようなエラーが表示されます。"[テレグラム]エージェント実行エラー:設定ファイルのロード中にエラーが発生しました。/etc/exraf/exraf.d/cusinetrainesetraine-default.conf : プラグイン出力。http : line <linenumber> : configuration specified the fields [use_system_proxy]"、but they were not used]	インストールされているTelegrafのバージョンが古い。このページの手順に従って、お使いのプラットフォームに対応するエージェント*をアップグレードしてください。
古いインストールでインストーラスクリプトを実行したが、エージェントがデータを送信していない	テレグラムエージェントをアンインストールし、インストーラスクリプトを再実行します。お使いのプラットフォームに応じて、このページの*エージェントのアップグレード*の手順を実行します。
Data Infrastructure Insightsを使用してエージェントをインストール済み	ホスト /VM にエージェントがすでにインストールされている場合は、エージェントを再度インストールする必要はありません。この場合は、Agent Installation (エージェントのインストール) 画面で適切なPlatform and Key (プラットフォームとキー) を選択し、* Continue * (続行) または * Finish (完了) * をクリックします。
エージェントはすでにインストールされているが、Data Infrastructure Insightsインストーラを使用していない	以前のエージェントを削除し、Data Infrastructure Insights Agentのインストールを実行して、デフォルトの構成ファイルが正しく設定されていることを確認します。完了したら、[* Continue * (続行) ] または [* Finish (完了) ] をクリックします。

詳細については、のページまたはを["Data Collector サポートマトリックス"参照して"サポート"ください。](#)

## データコレクタの設定

Data Infrastructure Insights環境でData Collectorを構成して、データセンター内のデバイスからデータを収集します。

開始する前に

- データの収集を開始する前に、Acquisition Unit を設定しておく必要があります。
- データの収集元のデバイスのクレデンシャルが必要です。
- データの収集元のすべてのデバイスには、デバイスのネットワークアドレス、アカウント情報、およびパスワードが必要です。

手順

1. [Data Infrastructure Insights]メニューで、\*[Observability]>[Collectors]\*をクリックします。

使用可能なデータコレクタがベンダー別に表示されます。

2. [+ Collector]\*をクリックし、設定するデータコレクタを選択します。

ダイアログボックスで、データコレクタを設定し、Acquisition Unit を追加できます。

3. データコレクタの名前を入力します。
4. [詳細構成 \*] をクリックして、追加の構成フィールドを追加します。すべてのデータコレクタで高度な設定が必要となるわけで
5. Test Configuration\* をクリックして、データコレクタが正しく設定されていることを確認します。
6. [Add Collector]\*をクリックして設定を保存し、Data Infrastructure Insightsテナントにデータコレクタを追加します。

サービスのデータがダッシュボードに表示されるか、クエリに使用できるようになるまで、ポーリング期間は最大 2 回かかる場合があります。

- ・最初のインベントリポーリング：すぐに
- ・第 1 回のパフォーマンスデータのポーリングでベースラインを確立：インベントリのポーリング直後
- ・第 2 回パフォーマンス poーリング：第 1 回のパフォーマンス poーリングが完了してから 15 秒以内

ポーリングは、設定されたインベントリとパフォーマンスのポーリング間隔に従って続行されます。

## データコレクタの収集ステータスの確認

データコレクタは、Data Infrastructure Insights の主要な情報源であるため、実行状態を維持することが不可欠です。

データコレクタのステータスは、アセットページの右上に「Acquired N minutes ago」というメッセージとして表示されます。N はアセットのデータコレクタの最新の取得時間を示します。取得日時も表示されます。

メッセージをクリックすると、データコレクタの名前、ステータス、および前回成功した収集時間を示すテーブルが表示されます。管理者としてサインインしている場合は、テーブルのデータコレクタ名のリンクをクリックすると、そのデータコレクタの詳細ページが表示されます。

## 設定済みデータコレクタの管理

[Installed Data Collectors] ページでは、Data Infrastructure Insights 用に設定されたデータコレクタにアクセスできます。このページを使用して、既存のデータコレクタを変更できます。

### 手順

1. [Data Infrastructure Insights] メニューで、\*[Observability]>[Collectors]\*をクリックします。

Available Data Collectors 画面が表示されます。

2. [インストール済みデータコレクタ \*] をクリックします

インストールされているすべてのデータコレクタのリストが表示されます。このリストには、コレクタの名前、ステータス、コレクタがアクセスしている IP アドレス、およびデバイスからデータが最後に取得された時刻が表示されます。この画面で実行できる操作には、次のものがあります。

- ポーリングの制御

- データコレクタのクレデンシャルを
- データコレクタのクローンを作成

## Data Collector ポーリングの制御

データコレクタに変更を加えたあと、変更を確認するためにポーリングをすぐに開始することができます。また、問題について調査するために、データコレクタのデータ収集を 1 日、3 日、または 5 日間延期することもできます。

手順

1. [Data Infrastructure Insights] メニューで、\*[Observability]>[Collectors]\*をクリックします。
2. [インストール済みデータコレクタ \*] をクリックします
3. 変更する Data Collector の左側にあるチェックボックスをオンにします
4. [ \*一括処理 \*] をクリックして、実行するポーリングアクションを選択します。

複数のデータコレクタに対して一括アクションを同時に実行できます。データコレクターを選択し、 \*一括アクション \* メニューから実行するアクションを選択します。

## データコレクタ情報の編集

既存のデータコレクタの設定情報を編集できます。

単一のデータコレクタを編集するには、次

1. [Data Infrastructure Insights] メニューで、\*[Observability]>[Collectors]\*をクリックして、インストールされているデータコレクタのリストを開きます。
  2. 変更するデータコレクターの右にあるオプションメニューで、 \* 編集 \* をクリックします。
- [Edit Collector] ダイアログが開きます。
3. 変更内容を入力し、 \* テスト構成 \* をクリックして新しい構成をテストするか、 \* 保存 \* をクリックして構成を保存します。

複数のデータコレクタを編集することもできます。

1. 変更する各データコレクタの左側にあるチェックボックスをオンにします。
2. 「 \* Bulk Actions \* 」 ボタンをクリックし、「 \* Edit \* 」 を選択して、「 Edit Data Collector 」 ダイアログを開きます。
3. 上記のようにフィールドを変更します。



同じベンダーとモデルのデータコレクタを選択し、同じ Acquisition Unit に配置する必要があります。

複数のデータコレクタを編集する場合、 Data Collector Name フィールドには「 Mixed 」と表示され、編集できません。ユーザー名やパスワードなどの他のフィールドには「混在」と表示され、編集できます。選択したデータコレクタ間で同じ値を共有するフィールドには、現在の値が表示され、編集できます。

複数のデータコレクタを編集する場合、 \* テスト設定 \* ボタンは使用できません。

## データコレクタのクローニング

クローニング機能を使用すると、別のデータソースと同じクレデンシャルと属性を持つデータソースをすばやく追加することができます。クローンを作成すると、同じデバイスタイプの複数のインスタンスを簡単に構成できます。

### 手順

1. [Data Infrastructure Insights]メニューで、\*[Observability]>[Collectors]\*をクリックします。
2. [インストール済みデータコレクタ\*]をクリックします。
3. コピーするデータコレクタの左側にあるチェックボックスをオンにします。
4. 選択したデータコレクターの右にあるオプションメニューで'\* クローン\*をクリックします

Clone Data Collector (クローンデータ収集) ダイアログが表示されます。

5. 必須フィールドに新しい情報を入力します。
6. [保存 (Save)]をクリックします。

### 終了後

他のすべての属性と設定がクローニング処理によってコピーされ、新しいデータコレクタが作成されます。

## データコレクタに対して一括操作を実行する

複数のデータコレクタの一部の情報を同時に編集できます。この機能を使用すると、複数のデータコレクタでポーリングの開始、ポーリングの延期、およびポーリングの再開を行うことができます。また、複数のデータコレクタを削除することもできます。

### 手順

1. [Data Infrastructure Insights]メニューで、\*[Observability]>[Collectors]\*をクリックします。
2. [インストール済みデータコレクタ\*]をクリックします
3. 変更するデータコレクタの左側にあるチェックボックスをオンにします。
4. 右側のオプションメニューで、実行するオプションをクリックします。

### 終了後

選択した操作がデータコレクタで実行されます。データコレクタを削除するように選択すると、アクションを適合させる必要があるダイアログが表示されます。

## データコレクタの問題の調査

データコレクタにエラーメッセージと「高」または「中」の影響がある場合は、データコレクタの概要ページにリンクされている情報を使用して、この問題を調査する必要があります。

次の手順に従って、失敗したデータコレクタの原因を確認します。データコレクタの障害メッセージは、[Admin]メニューおよび[\*Installed Data Collectors]ページに表示されます。

### 手順

1. [Admin>\*Data Collector\*>\*Installed Data Collectors] をクリックします。
2. [リンクされたデータコレクタの名前] をクリックして、[概要] ページを開きます。
3. 概要ページのコメント領域で、同じ問題について調査している他のエンジニアのメモがある場合はその内容を確認します。
4. パフォーマンスのメッセージを確認します。
5. イベントタイムライングラフのセグメントにマウスポインタを合わせると、追加情報が表示されます。
6. デバイスのエラーメッセージを選択し、イベントタイムラインの下に表示された後、メッセージの右側に表示されるエラー詳細アイコンをクリックします。

エラーの詳細には、エラーメッセージのテキスト、考えられる原因、使用中の情報、問題を修正するため試すことができる推奨事項が含まれています。

7. この Data Collector 領域から報告されるデバイスでは、リストをフィルタして対象デバイスのみを表示したり、デバイスのリンクされた \*名前\* をクリックしてそのデバイスのアセットページを表示したりすることができます。
8. データコレクタの概要ページに戻ったら、ページの下部にある「最近の変更を表示」 \*領域で、最近の変更が問題の原因になっていないかどうかを確認します。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。